

神奈川県  
SDGs社会的インパクト評価実証事業（2019年度）

# 業務報告

2020年3月25日  
ケイスリー株式会社

# はじめに

- 本業務の成果物は以下のとおりである。本資料は2に当たる。

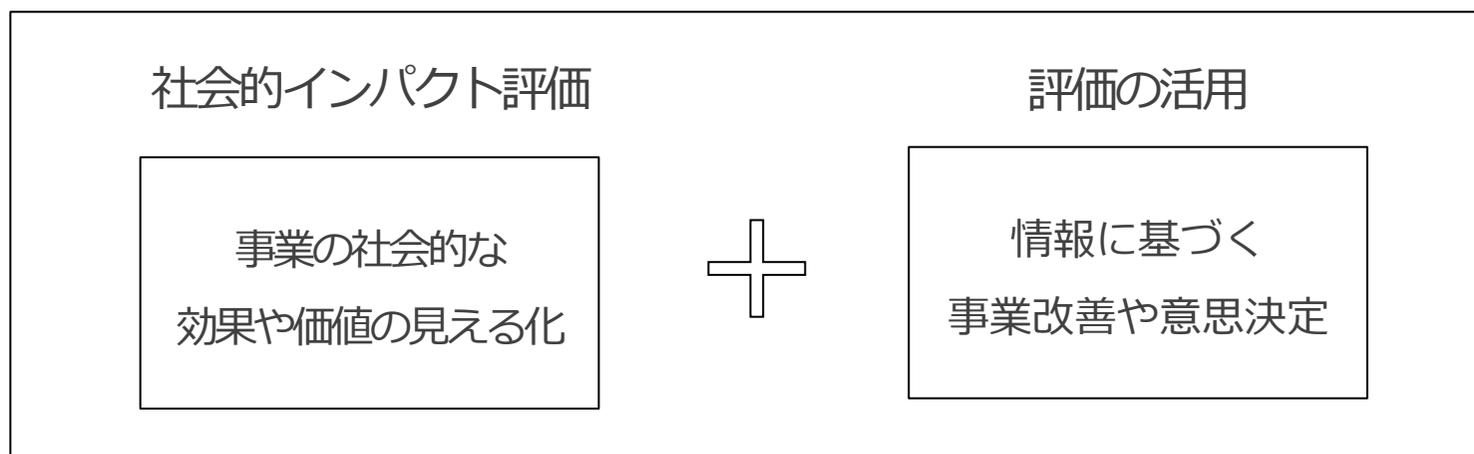
	成果物	位置づけ・概要	
公開資料	1	業務報告（概要版）	本業務全体の報告の概要
	2	業務報告	本業務全体の報告
	3	SDGs社会的インパクト・マネジメントガイド（導入編）	SDGs経営の意義や、それを進めていく手法としての社会的インパクト・マネジメントの概要を紹介
	4	SDGs社会的インパクト・マネジメントガイド（実践編）	SDGs社会的インパクト・マネジメントを具体的に実践していくための手引き
	5	SDGs社会的インパクト・マネジメントガイド（事例編）	SDGs社会的インパクト・マネジメント実践の具体例
	6	実証事業レポート	4つの実証事業の結果 （※ガイド事例編に、各実証事業の詳細情報を加えたもの）
	7	SDGs達成に向けた金融における社会的インパクト・マネジメント活用の可能性	SDGs×社会的投資のグローバル動向と、金融機関における社会的インパクト・マネジメント活用の方向性に関する検討
	8	日本における社会的インパクト・マネジメントの現状2019	社会的インパクト評価の実態把握と、マネジメントへの活用に向けた学びを整理
参考資料	A	委員会資料	本事業で5回開催した委員会資料
	B	委員会議事メモ	本事業で5回開催した委員会の議事メモ
	C	実践研修資料	本事業で開催した実践研修の資料（全10回分）

1. 本事業の焦点、目的
2. 本事業の成果
3. 来年度に向けて
4. 本事業の実施体制

1. 本事業の焦点、目的
2. 本事業の成果
3. 来年度に向けて
4. 本事業の実施体制

- 「社会的インパクト評価」をめぐる議論は、いかに測るかから、その情報をいかに活用するか、に移行しつつあり、SDGs採択以降その流れは加速している。
- 本事業でも、社会的インパクトの見える化にとどまらず、それをインパクト向上に活かしていく「社会的インパクト・マネジメント」(SIM)に重点を置いた。

### 社会的インパクト・マネジメント (SIM)



#### 社会的インパクト・マネジメントとは

事業運営により得られた事業の社会的な効果や価値に関する情報にもとづいた事業改善や意思決定を行い、社会的インパクトの向上を志向するマネジメントのこと

## 1-2 事業の目的（1）

- SDGsの観点から社会的インパクト・マネジメントに取り組むことで、事業の社会的価値の見える化や向上、ひいては持続性の向上を実現し、資金提供者との新たな対話を生むことをめざす。



- 環境・社会・経済を包摂
- 価値の「見える化」
- 価値の向上、持続性の向上

- 資金提供者との新しい対話

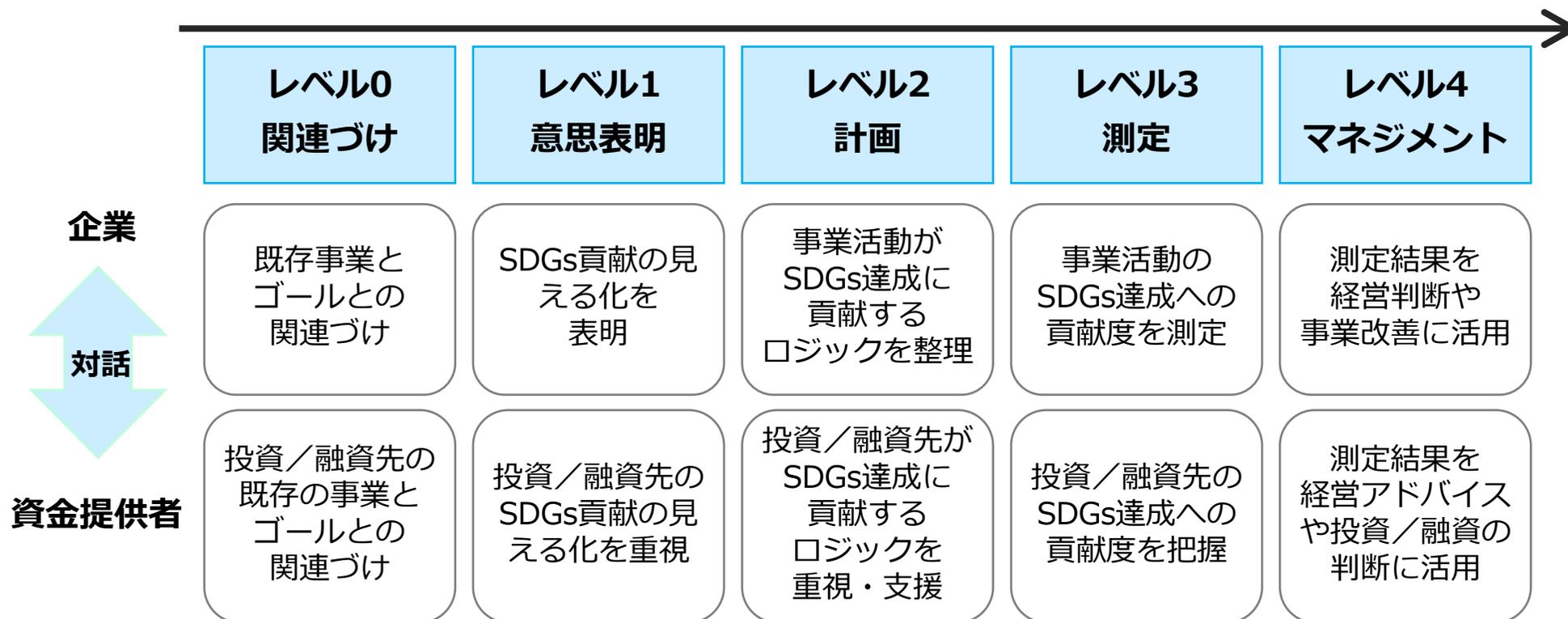
## 1-2 事業の目的（2）

- SDGs×社会的インパクト・マネジメントの実践により、事業者・資金提供者ともに質の高い「SDGs経営」※の実現をめざすことが期待できる。

※SDGs経営：本資料では「本業を通してSDGs達成への貢献を目指す経営」と定義しています

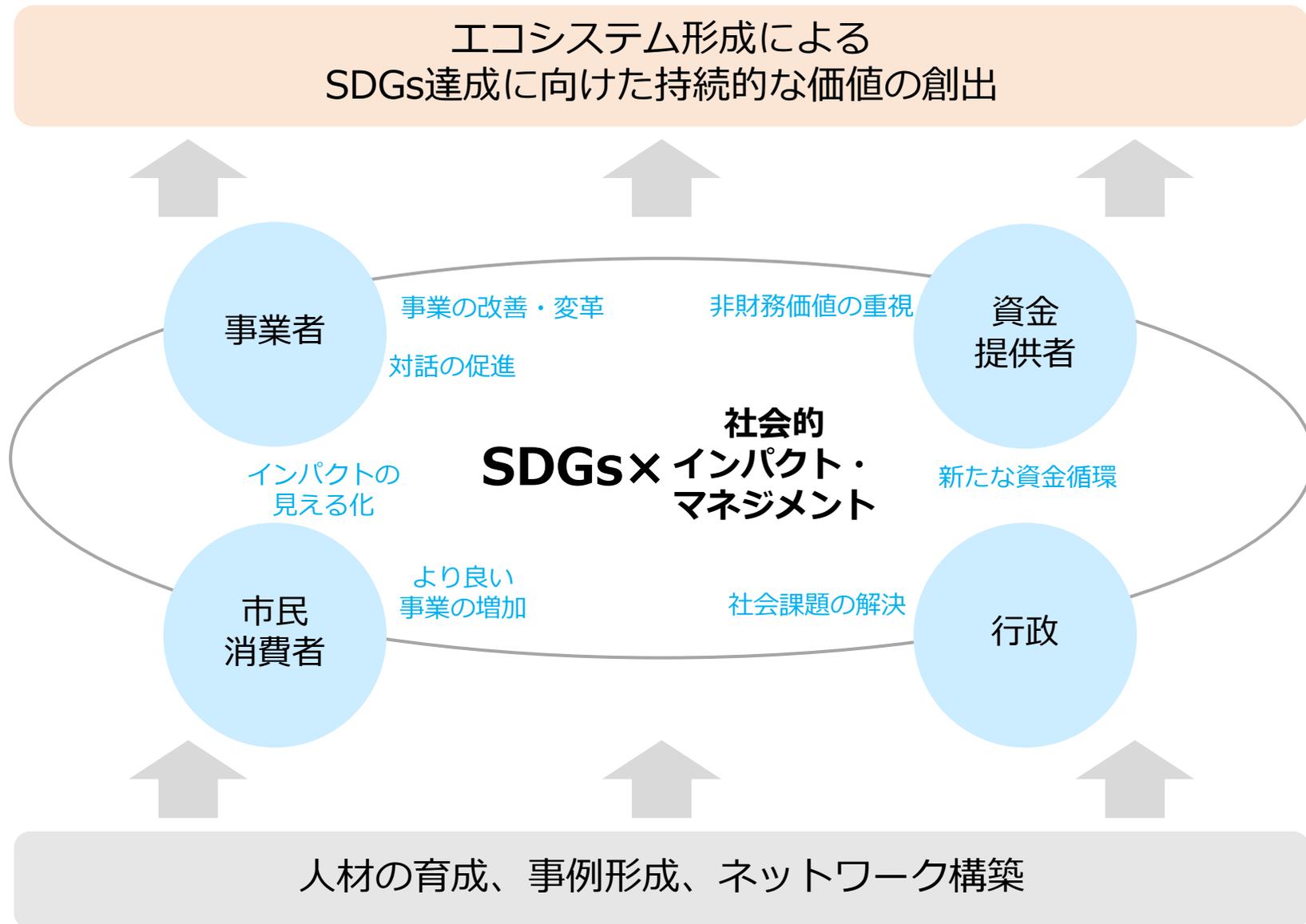


### SDGs経営のレベルアップ



## 1-2 事業の目的（3）

- SDGs×社会的インパクト・マネジメントを軸として、事業者・資金提供者を含む多様なステークホルダーがSDGsに向けて連携するエコシステムの形成をめざす。



- 
1. 本事業の焦点、目的
  2. 本事業の成果
  3. 来年度に向けて
  4. 本事業の実施体制

## 2-1 実施内容

- 本事業は、「SDGs×社会的インパクト・マネジメント（SIM）×金融」のエコシステム形成に向けた取組みの2年目に当たる。主な実施内容は以下のとおり。

	2018年度	2019年度	ビジョン
1 SDGs × SIM	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証実施</li> <li>「評価実践ガイド」策定</li> <li>多様なステークホルダーとのネットワークの形成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証実施</li> <li>「SDGs×SIMガイド」策定</li> <li>社会的インパクト評価事例調査</li> </ul>	SDGs ×SIM ×金融 の エコ システム 形成
2 × 金融	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs×金融に関する国内外の動向調査</li> <li>基本方針と課題等の整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs×金融に関する国内外の動向調査</li> <li>SIM活用に向けた提言策定</li> <li>実証事業／研修への組み込み</li> </ul>	
3 人材 育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>求められる能力、技術の整理</li> <li>人材育成研修案の検討・作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践研修の実施</li> <li>今後の展開に向けた提言策定</li> </ul>	

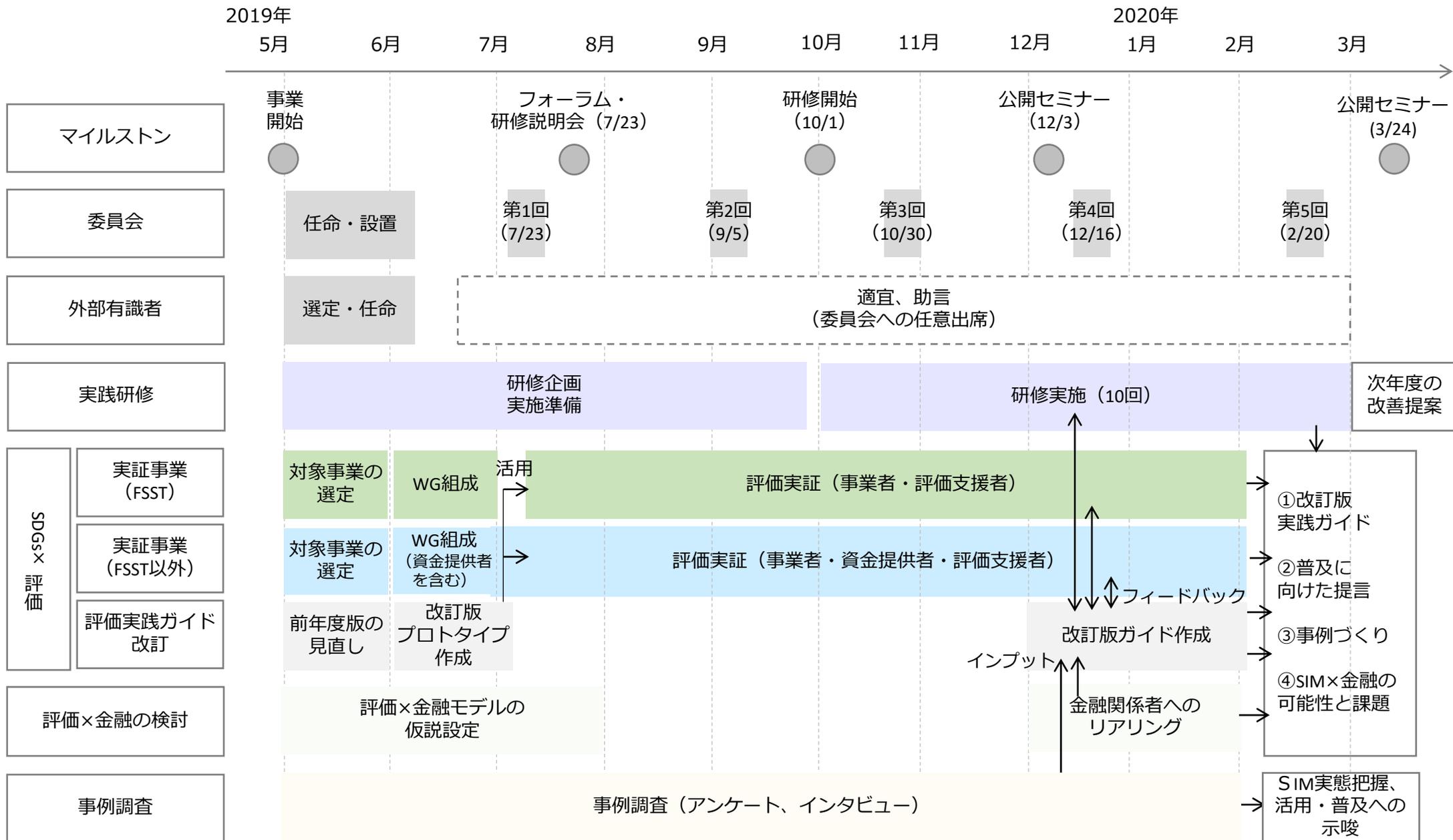
## 2-2 成果

- 各項目ごとの成果の作業概要とアウトプットは以下のとおり。

作業項目	作業概要	アウトプット
1 SDGs ×SIM	実証実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>4つの実践事例</li> <li>4つのSIM実践レポート &lt;公開資料6&gt;</li> <li>学び抽出→ガイド等へのインプット</li> </ul>
	ガイド策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度のガイドを基礎に、今年度の実証事業や研修事業での学びを反映して改定</li> <li>ガイド導入編・実践編・事例編 &lt;公開資料3~5&gt;</li> <li>来年度以降の普及に向けた施策案</li> </ul>
	事例調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国内の社会的インパクト評価の実態を把握するためのアンケート及びインタビュー調査</li> <li>現状レポート &lt;公開資料8&gt;</li> <li>成功要因や課題の抽出→来年度に向けた提言へのインプット</li> </ul>
2 ×金融	国内外の動向調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGsや社会的インパクトをめぐる資金の流れについて国内外の最新動向を調査</li> <li>動向調査レポート &lt;公開資料7&gt;</li> <li>SIM活用に向けた提言へのインプット</li> </ul>
	SIM活用に向けた提言策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践研修における議論やインタビュー調査に基づく金融機関によるSIM活用の可能性の検討</li> <li>金融機関によるSIM活用に向けた提言 &lt;公開資料7&gt;</li> </ul>
	実証事業／研修への組み込み	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証事業及び実践研修への金融機関の参加を促し、SIM活用に向けた議論の土台作り</li> <li>実証事業への金融視点のインプット</li> <li>実践研修への金融機関からの参加、事業者と金融機関との対話の場</li> </ul>
3 人材育成	実践研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>5カ月間、全10回の研修実施</li> <li>事業者、資金提供者、事業支援者から25社参加</li> <li>研修テキスト（全10回分） &lt;参考資料C&gt;</li> <li>18名への「神奈川県SDGs社会的インパクト・マネージャー」修了証授与</li> </ul>
	今後の展開に向けた提言策定	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修実施のプロセスや結果、参加者からのフィードバック等を基に提言策定</li> <li>来年度以降の展開に向けた提言</li> </ul>

## 2-3 実施スケジュール

- 本事業の実実施スケジュールは以下のとおり。



## 2-4 実証事業

- 評価実証を、Fujisawaサステイナブル・スマートタウン（FSST）の2事業と、その他2事業で実施した。実証事業には、関係する金融機関の協力も得た。

参加企業 (協力金融機関)		対象事業	事業概要	関連するSDGs (ターゲット)
1	Fujisawa SST協議会 (パナソニック株式会社、 株式会社学研ココファン)	全ての世代が安心して暮らすためのコミュニティケアの普及	コミュニティケアの普及を目指して取り組む (1) サービス付き高齢者住宅における職員の勤務形態の多様化、 (2) 交流イベントの企画・運営。	 (3.8)  (8.2)  (11.3)
2		エコ&スマートな暮らしの実現	太陽光パネルや蓄電池、省エネ設備の導入、再生可能エネルギーの使用等による、街全体での二酸化炭素排出量の大幅削減。「自立共生型エネルギー・マネジメント」による住宅におけるエネルギーの効率活用。	 (7.2)  (9.4)  (11.3)  (12.8)  (17.17)
3	株式会社インターネット インフィニティー (投資信託会社)	レコードブック事業	高齢者の健康寿命延伸を目的とした「健康と笑顔をつくる」3時間リハビリ型デイサービス。	 (3.8)  (8.5)
4	株式会社リエゾンワークス (きらぼし銀行)	コンビニエコレジ袋 広告事業	コンビニへのエコレジ袋の無償提供。エコレジ袋に広告チラシを封入することで無償提供を可能にし、封入作業自治体と連携し福祉作業所に依頼。	 (8.5)  (10.2)  (12.8)  (13)

⇒ 実証事業の詳細は「資料6」を参照

## 2-5 SDGs社会的インパクト・マネジメント ガイド

- 実証事業及び実践研修からの学びを基に、3つの「SDGs社会的インパクト・マネジメントガイド」を作成した。

### 導入編



### 実践編



### 事例編



#### 内容

SDGs経営の意義や、それを進めていく手法としての社会的インパクト・マネジメントの概要を紹介

SDGs×社会的インパクト・マネジメントを進めていく方法について、具体的なプロセスを解説

実証事業におけるSDGs社会的インパクト・マネジメント実践の具体例

#### 対象者

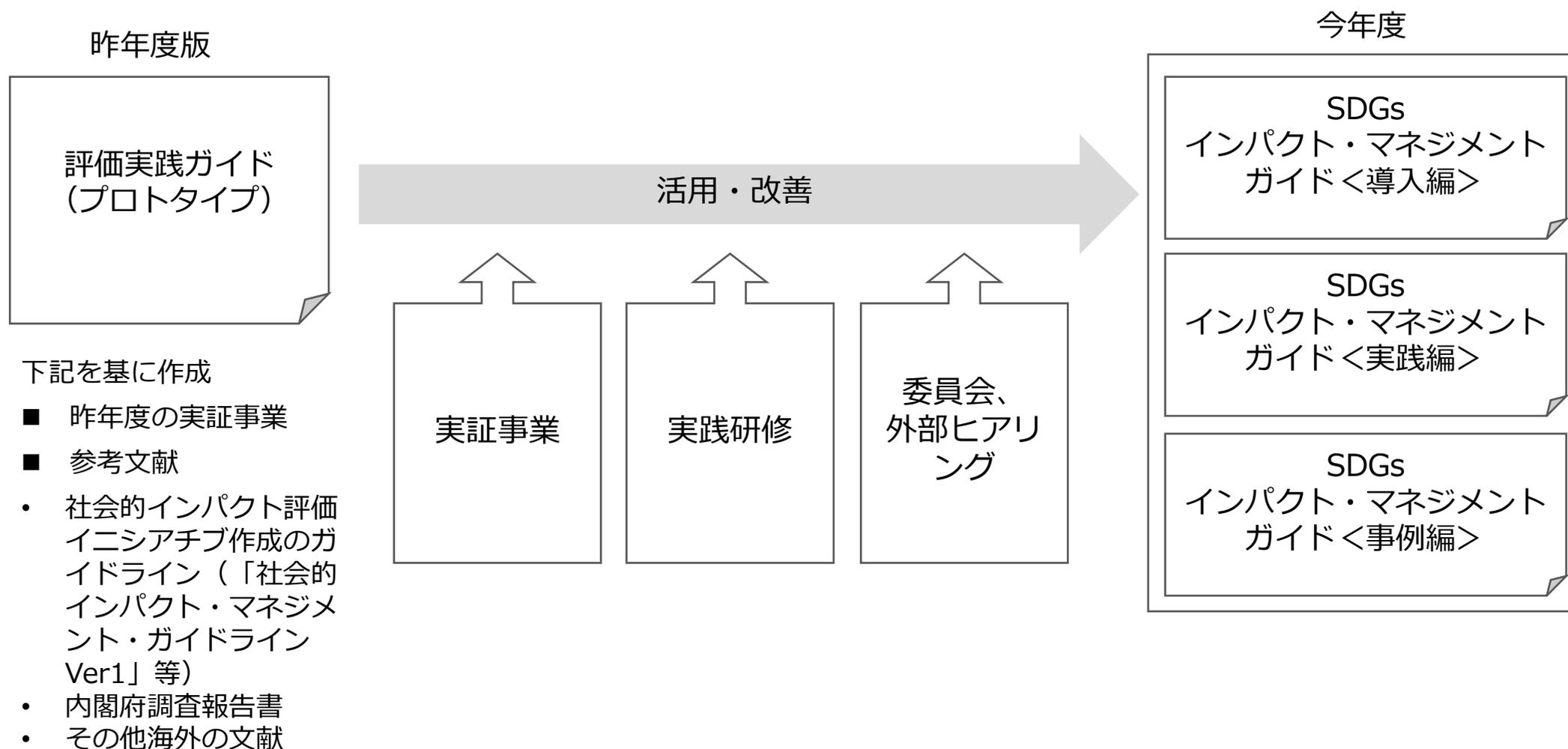
- SDGsへの取組みのレベルアップをめざす方
- SDGs社会的インパクト・マネジメントの概要を知りたい方

- 実践の経験がなく、まずは概要や実践のイメージを掴みたい方
- 概要の理解や実践の経験があり、実践の手引きとして利用したい方

- SDGs社会的インパクト・マネジメントの具体事例を知りたい方

## 2-6 SDGs社会的インパクト・マネジメント ガイド（作成プロセス）

- 昨年度のプロトタイプを基に、実践研修や実証事業内での活用を通じて改善し、現場でのニーズ等も踏まえて、今年度のガイドパッケージを作成した。



## 2-7 SDGs社会的インパクト・マネジメント ガイド（活用・普及に向けて）

- ガイド策定に係る今年度の施策と来年度以降の施策案は以下のとおり。

	今年度の施策	来年度以降の施策案
1 人材育成との連動	<ul style="list-style-type: none"> <li>人材育成を目的とした実践研修を実施し、その中でテキストとして活用すると同時に、そこでのフィードバックを反映して改善。</li> <li>研修参加者の声を取り入れ、参加者が組織に戻ってから、組織内外で活用できるものとする事で、修了生をハブとした普及をめざした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>来年度以降の研修におけるテキストとして活用</li> <li>修了生が独自に実施する研修等におけるテキストとして活用</li> </ul>
2 金融機関との連携 (金融機関を通じて事業者への普及をめざす)	<ul style="list-style-type: none"> <li>実証事業や実践研修に金融機関が参加し、SIMについての学習や活用検討などを行った。</li> <li>金融機関の声を取り入れ、事業者が金融機関との対話に活用することを視野に入れたモデルを策定した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>金融機関が深く参画した形での実証事業や事例形成、事例の共有</li> <li>金融機関を対象とした研修等の開催</li> <li>金融機関への経営に統合することを目的に、個々の機関における実装をめざす伴走支援</li> <li>今年度参加した金融機関のフォローアップ</li> </ul>
3 認知向上、活用促進に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>SIMの概念や事例、金融機関における活用について検討する公開セミナーを開催（計3回）</li> <li>（昨年度からの）ガイドの簡素化</li> <li>昨年度作成した「どうやるか」という実践ガイドに加え、「なぜやるか」を導入編として追加（実践ガイドも改定）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドの冊子化</li> <li>ガイドの使い方や事例に関するオンライン発信</li> <li>初心者向けの研修の実施</li> <li>ガイド利用者からのフィードバックを基にした新たな施策を企画</li> </ul>

## 2-8 社会的インパクト・マネジメントの現状調査（実施概要）

- 本調査の目的および背景と、進め方は以下のとおりである。

### 目的

- 日本における社会的インパクト評価の実態を明らかにする
- 事業改善や組織価値の改善につながる要因を抽出する

### 背景

- 前年度の実証事業では、評価が事業改善や組織価値向上につながる可能性を見い出すことができた。これを個別事例として終わらせず、社会的インパクト評価を普及・促進するために、社会的インパクト評価の実践状況の把握と、普及・促進に向けて必要な対応策をとることが必要
- アンケート調査や具体的な事例をもとに、評価の目的や実際に得られた効果、重要なポイントを明らかにし、社会的インパクト評価の普及・促進に向けて必要なポイントを整理する

### 進め方

アンケート調査および、インタビューによるケーススタディを行った。

#### アンケート調査

- ① アンケート送付対象の抽出
- ② アンケート設計
- ③ アンケート調査の実施
- ④ 調査の結果分析、報告書作成

#### ケーススタディ

- ① 対象の抽出
- ② インタビュー設計
- ③ インタビュー調査の実施
- ④ 調査の結果分析、報告書作成

## 2-9 社会的インパクト・マネジメントの現状調査（結果概要）

- 調査結果の概要は、以下のとおり。

⇒ 調査結果の詳細は「資料8」参照

社会的インパクト評価に関して（81件回答中）

実施したことがある

44%

その内

報告したことがある

69%

活用したことがある  
（マネジメント）

42%

内部での実施

56%

成功要因

- 組織内での意義、目的、実施に対する共有・理解
- 必要性・価値を認識した自発的な実施
- 外部専門家の活用や外部からの支援
- データ収集・分析の知見を有する内部人材
- データ取得・整備の体制

課題

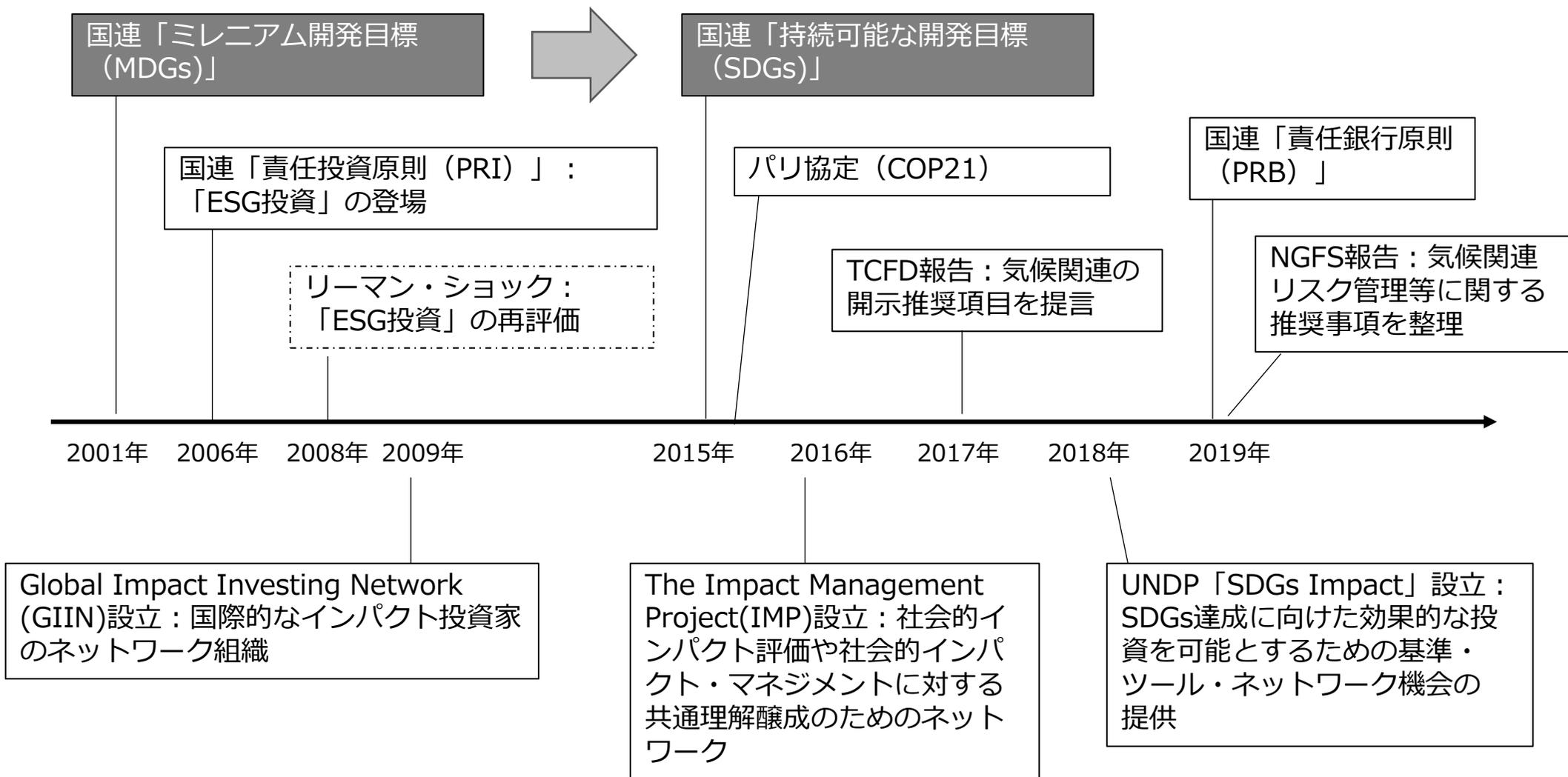
- 実施のための内部リソースの不足
- 実施手法の知見の不足
- 外部の支援ツールの不足
- 社会的インパクト評価に対する理解の不足
- 評価のための資金不足

対応策・提言

- 実施の伴走支援、データ分析等への支援
- 事業者・外部支援組織向け研修、社内研修化の促進
- 良い事例・型作り（近い業界の事例づくり、共通の型・評価軸づくり）
- 社会的インパクト評価への理解醸成に向けた情報発信

## 2-10 金融との接続（SDGsをめぐる社会的投資の動向）

- SDGsやESGに係る金融に関する国際的な主な潮流は以下のとおり。



⇒ 動向の詳細は「資料7」参照

出典 : 日本銀行「SDGs/ESG金融に関する金融機関の取り組み」等を基に弊社作成

## 2-11 金融との接続（金融におけるSIM活用の可能性）

- 社会的インパクト・マネジメントの活用は、SDGsへの取組みに関して資金提供者が抱えている課題を解消し、取組みを後押しする可能性を有している。

### SDGsへの取組みに関する現状と課題

#### 融資

- 財務情報中心の企業評価から、非財務情報も加味する事業性評価に移行しつつある。
- SDGs達成や社会のサステナビリティ向上は、銀行にとっても重要課題と捉え、社会全体をサステナブルなものとするための顧客支援が必要との認識が広がりつつある。
- 非財務に関する取組みにおいて、気候変動や環境に対するものに比べ、社会課題に対する取組は遅れている。

#### 出資

- SDGsのトレンドは大きくなり、関心は高まっている。
- 特に海外のアセットオーナーの意向としては、SDGsと関連させて投資評価を行い運用してほしいというニーズが強くなっている。
- 非上場企業は開示される情報が限定的。
- 投資にあたっては、企業理念や経営思想の確認等、定性的で不可視的なものの理解が必要。

#### 助成

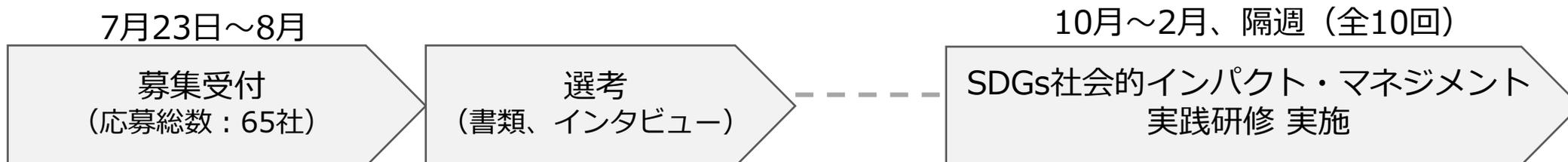
- 社会課題解決が業務であり、SDGs達成は当たり前ものとして事業を行っている
- 社会課題解決に向けて、実施事業の改善、助成先・アプローチ先の拡大や、ビジネスセクターとの協働の必要性が高まっている。

SIMの活用が、これらの課題解決に資する可能性がある

## 2-12 実践研修（準備）

- 65社の応募から、25社を選考して研修を実施

### 【スケジュール】



### 【参加者（五十音順）】

事業者  
(13社)

会社名・組織名
石井造園株式会社
向洋電機土木株式会社
国際航業株式会社
コニカミノルタ株式会社
湘南電力株式会社
スリール株式会社
認定NPO法人Teach For Japan
株式会社TBM
一般社団法人ファストエイド
文部科学省
株式会社横浜フリースポーツクラブ
横浜市資源リサイクル事業協同組合
株式会社リビエラ

資金提供者  
(9社)

会社名・組織名
ARUN合同会社
かながわ信用金庫
公益財団法人笹川平和財団
公益財団法人日本財団
株式会社日本政策投資銀行
日本ベンチャーキャピタル株式会社
株式会社みずほ銀行
株式会社横浜銀行
株式会社ローソン銀行

事業支援者  
(3社)

MS&ADインターリスク総研株式会社
一般社団法人オープンデータラボ
一般社団法人日本経営士会 南関東支部 神奈川経営支援センター

- 研修の参加者募集開始に合わせ、SIM実践のための人材育成をテーマとしたフォーラム（公開イベント）を開催。

神奈川県SDGsインパクト評価フォーラム

### 「SDGs×評価×金融」の実践

～SDGs達成への貢献が見える化し、社会的価値を高める「人材」を育成する～

#### 【開催概要】

- 日時：2019年7月23日（火）13:30-16:00
- 場所：パシフィコ横浜
- 主催：神奈川県
- 事務局：ケイスリー株式会社

#### 【参加者】（申込ベース）

- 計99名  
＜属性内訳＞
  - 事業者（営利）40%
  - 金融機関 19%
  - 中間支援者 18%
  - 事業者（非営利）15%



### 【プログラム】

#### 開会挨拶

- ・ 首藤 健治氏（神奈川県副知事）

#### 基調講演

— 「SDGs×評価」の実践に求められる人材とは

- ・ 源 由理子氏（明治大学公共政策大学院 ガバナンス研究科 研究科長・教授）

#### パネルディスカッション

— 『SDGs×評価×金融』のエコシステムを支える人材をどう育成するか

パネリスト（五十音順）：

- ・ 黄 春梅氏（新生企業投資株式会社 インパクト投資チーム シニアディレクター）
- ・ 関 良一氏（アルケア株式会社 ロコモ事業部 部長）
- ・ 源 由理子氏（明治大学公共政策大学院 ガバナンス研究科 研究科長・教授）

モデレーター：

- ・ 幸地 正樹氏（ケイスリー株式会社 代表取締役）

#### SDGs 社会的インパクト評価実証事業概要と実践研修プログラムについて

- ・ 今尾 江美子氏（ケイスリー株式会社）

#### 質疑応答

### 【開催レポート】

- (1) [https://note.com/k\\_three/n/n72f5f83db341?magazine\\_key=m8feea9e105fd](https://note.com/k_three/n/n72f5f83db341?magazine_key=m8feea9e105fd)
- (2) [https://note.com/k\\_three/n/n3080e60a2785?magazine\\_key=m8feea9e105fd](https://note.com/k_three/n/n3080e60a2785?magazine_key=m8feea9e105fd)
- (3) [https://note.com/k\\_three/n/n20e229ed2cc7?magazine\\_key=m8feea9e105fd](https://note.com/k_three/n/n20e229ed2cc7?magazine_key=m8feea9e105fd)

## 2-15 実践研修（様子）

参加者による実践グループワーク



第1回の講師 株式会社トゥリー水野氏



## 2-16 実践研修（結果）

### 【プログラム】

企業におけるSDGs達成貢献のための「社会的インパクト・マネジメント」について、基礎的内容を講義+実践形式で学ぶ。また資金提供者との対話を通じて、金融との接続を考える。

回	日程	テーマ・内容
1	10/1 (火)	SDGsの基礎 (株式会社トゥリー水野氏) 社会的インパクトマネジメントの概要、金融との接続
2	10/15 (火)	社会的インパクトマネジメントの基礎 ロジックモデルの基礎
3	11/5 (火)	ロジックモデル、評価概論 (明治大学 源氏)
4	11/19 (火)	ロジックモデル (CSOネットワーク 今田氏)
5	12/3 (火)	【公開セミナー】 評価計画 (CSOネットワーク 今田氏)
6	12/17 (火)	評価計画 (調査方法) インパクト投資 (新生企業投資 黄氏)
7	1/7 (火)	データ収集、レポートニングの基礎
8	1/21 (火)	調査設計、データ分析 (定量・定性) (東洋大学 米原氏)
9	2/4 (火)	レポートニングの基礎、事業の振り返り 参加者発表①
10	2/18 (火)	SDGs社会的インパクトマネジメントのまとめ 参加者発表②

### 【特徴】

- ✓ SDGs社会的インパクト・マネジメントの「実践的」研修
- ✓ 座学とフィールド実践の「往復」学習
- ✓ 事業者・事業支援者・資金提供者による「協働」実践

### 【結果】

- ・参加率 (8割以上出席) : 64.5% (20名/31名)
- ・最終レポート提出 : 72%(18社/25社)
- ・修了証 : 18名
- ・参加証明書 : 4社
- ・ロジックモデル作成 : 68% (13社/19社※)
- ・指標設定 : 42% (8社/19社※)

※参加事業者数



- 研修の成果について、研修参加者の声は以下のとおり（アンケートより一部抜粋）

### 研修は、現場でどのように役立ちましたか？

- 事業推進メンバーとサステナビリティ担当メンバー間での**コミュニケーション促進**に使える。
- ステークホルダーへの**コミュニケーションツール**として活用。
- 長年名前のつけられなかった**事業の効果を「社会的インパクト」と呼べる**ようになれるかと思うので、それを大いに活用したい。
- ロジックモデルによって、**活動内容のめざすべきもの（最終アウトカム）を整理**することができた。
- ロジックモデルの作成は、**事業開発段階でも役に立つ**と思う。
- **企業ブランディング**の構成として活用できた。
- 金融機関、特に**銀行の投融資に対する考え方**。

### 社会的インパクト・マネジメント（SIM）の実践は、事業改善につながると感じますか？

- ロジックモデル作成のプロセスで、メンバーと意識を合わせ、「皆」で決め「皆」で目指すかたちができます。目指すべきものがはっきりと共有できれば、ブレずに**その軸を持って目標達成へと向かえる**と思います。
- SIMの全体像を理解できたので、完璧ではないにしても**実行するための知識とチャンスを得られた**。
- **自分自身の事業開発や、外部の支援の場で活用**できると思う。
- 今回のワークシートをはじめとしたツール、解説資料、考え方は既に業務の中に取り入れ、その**有用性を感じている**。
- 完璧でなくても**継続的改善を目的に大胆に進めていくことが大切だ**と感じた。

## 2-18 実践研修（学び・改善）

- 今年度の実施を通じて見えた課題と、来年度に向けての対応策は以下のとおり。

	今年度、見えた課題	来年度に向けての対応策
1 参加者のレベル分けとセグメント	<ul style="list-style-type: none"><li>難易度や進捗・体制などがバラバラであるため、座学と現場の実践を往復するのが難しかった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>入門編と応用編に分ける（レベル分け）。</li><li>応用編では、共通の事例を一貫して学ぶ。</li><li>可能な場合は自社での実践に落とす。</li></ul>
2 SDGsとの接続	<ul style="list-style-type: none"><li>もう少しインパクト・マネジメントとSDGsを関連づけることが必要。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>SDGsを学ぶというよりも、企業の文脈や言葉で自社が取り組む社会課題の分析を深掘りする時間を設ける。</li></ul>
3 金融との接続	<ul style="list-style-type: none"><li>金融機関の特性が異なるため、金融機関同士や対事業者でもコミュニケーションの深まりはあまり感じられなかった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>研修の中に「金融機関」という枠をつくるよりも、「金融機関」を対象にした別プログラムを設ける。</li></ul>
4 学びの方法	<ul style="list-style-type: none"><li>消化不良になっているとの声が途中聞かれており、特に「社会性の扱いの理解」が難しかった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>立場に応じたコースとレベルで分ける。相互の学び合いの時間を増やす。</li></ul>

神奈川県 SDGsインパクト・マネジメント セミナー

「SDGs×評価×金融」 事例と実践

～SDGs達成に向けた事業の価値をどのように見える化し、金融との新たな対話につなげるか～

【開催概要】

- 日時：2019年12月3日（火）  
12:30-15:00
- 場所：パシフィコ横浜
- 主催：神奈川県
- 事務局：ケイスリー株式会社



【プログラム】

開会挨拶

神奈川県 理事（いのち・SDGs担当）山口 健太郎氏

プレゼンテーション

「SDGs×評価×金融」に向けた取り組み

- 幸地 正樹 ケイスリー株式会社代表取締役

パネルディスカッション

SDGs社会的インパクト・マネジメントの実践事例

～社会的価値の「見える化」がもたらす企業と金融との新たな対話～

パネリスト（五十音順）：

- 今田大輔氏 国際航業株式会社 インフラマネジメント事業部 企画部 企画グループ
- 木曾 大介氏 かながわ信用金庫 業務部 業務企画課
- 杉本 孝公氏 株式会社インターネットインフィニティ 経営企画部 部長
- 照沼 大氏 日本ベンチャーキャピタル株式会社 執行役員 ベンチャーキャピタリスト
- 羽鳥 徳郎氏 株式会社TBM コーポレート・コミュニケーション本部 サステナビリティ・アクセラレーター

モデレーター：

- 今尾 江美子氏 ケイスリー株式会社

ワークショップ

ご参加のみなさま全員で、テーマ別のグループに分かれて議論

- ①企業にとって、社会的価値を「見える化」する意義とは？
- ②社会的インパクト・マネジメントがあらゆる企業にとって実践可能になるには
- ③社会的価値の「見える化」で、企業と金融の関係はどのように変わるか？
- ④SDGs達成貢献に向けて金融ができること

- 参加者数、参加者の属性、アンケート回答は以下のとおり。

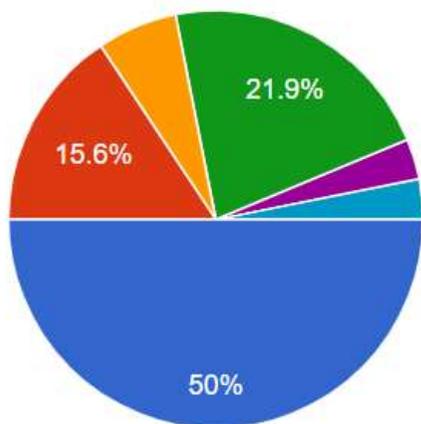
【参加者】

【アンケート】

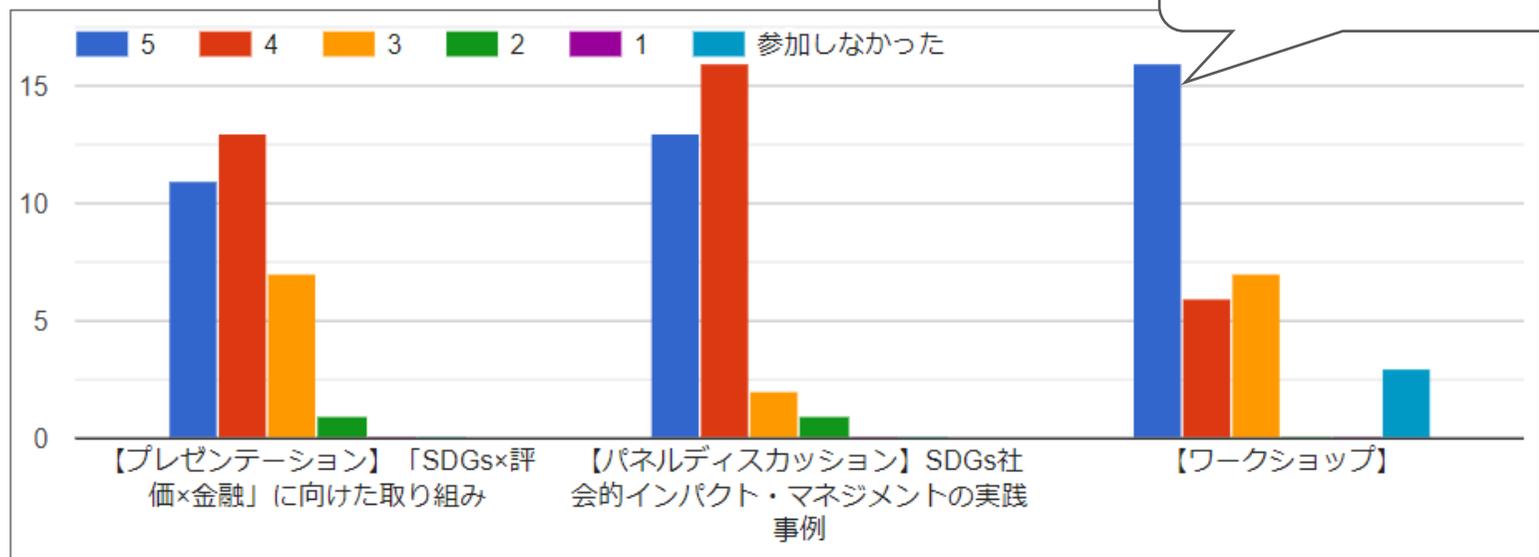
- 各セッションは、どのくらい有意義だと感じましたか？

参加者：78名

属性分布：



- 事業者（営利）
- 事業者（非営利）
- 資金提供者
- 事業支援者
- 社会人大学院（研究者）
- 行政



参加型ワークショップの満足度が高かった

・参加者の声

- ・具体的な事例がわかりよかった（より詳しく聞きたい）
- ・金融の意見が聞いてよかった
- ・WSで他の企業の事例を知り、意見交換ができてよかった。
- ・WSでいろいろな人と知り合えた。つながりができた。



神奈川県SDGsモデル事業 公開セミナー

## 「SDGsインパクト・マネジメント×ファイナンス」 事例と実践 ～ケースから考える、SDGsビジネスのための新たな経営と金融～

- 【開催概要】
- ・ 日時：2020年3月24日（火） 13:30-16:30 （オンライン配信）
  - ・ 主催：神奈川県 事務局：ケイスリー株式会社

### 【プログラム】

**開会挨拶** 神奈川県 理事（いのち・SDGs担当） 山口 健太郎氏

#### プレゼンテーション

SDGsビジネスに、なぜ「社会的インパクト・マネジメント」が必要なのか～神奈川県SDGsモデル事業の取組みと成果～  
・ 今尾江美子 ケイスリー株式会社

#### パネルディスカッション

1部：SDGsインパクト・マネジメントの実践事例

～企業のビジネスを通じた社会的価値創造と投資家との新たな対話～

- ・ 黄春梅氏 新生企業投資 インパクト投資チーム シニアディレクター
- ・ 米原 あき氏 東洋大学 社会学部 教授
- ・ 鈴木豪 ケイスリー株式会社
- ・ 今尾江美子 ケイスリー株式会社（モデレーター）

2部：SDGsインパクト・マネジメントの実装に向けて

～5ヶ月間にわたる実践研修からの学びと、今後の展開～

- ・ 木曾 大介氏 かながわ信用金庫 業務部 業務企画課
- ・ 末吉光太郎氏 みずほ銀行 リテール法人推進部兼SDGsビジネスデスク
- ・ 羽鳥 徳郎氏 株式会社TBM コーポレート・コミュニケーション本部  
サステナビリティ・アクセラレーター
- ・ 横澤 昌典氏 向洋電機土木株式会社 広報部
- ・ 幸地 正樹 ケイスリー株式会社代表取締役（モデレーター）

神奈川県の来年度以降の取組み



## 2-22 きらぼし銀行での勉強会

- ・実証事業参加者であるきらぼし銀行において、有志のSDGs勉強会で、ロジックモデル作成ワークショップを実施。40名程度が参加。

### <ワークショップでの気づき>

- ・ちいさな仕事1つで、社会にこんな影響があるということがわかった。
- ・最終アウトカムが、企業理念に近いのではないかと感じた。

### <銀行が社会的・環境的価値を創出するには？>

- ・SDGsに向かって活動する会社がまだ少ない中、銀行と一緒にそこを考えるコンサルができるのでは。
- ・財務だけではないトータルでの事業性を重視するという方針を持っているので、それを融資判断にいれる。
- ・ビジネスマッチング。課題解決のための事業支援ができる。
- ・銀行の強みは、情報。良い事業をやっている事業者をアピールしてあげることができる。
- ・課題解決のためのファンドを作るなどして、子供を育てやすい環境をつくって少子高齢化の改善につなげる。
- ・ペーパーレスを進める。環境にもコスト・時間削減にもつながり、生まれた時間を企業との対話に使える。
- ・SDGsへの取り組みに対して財務リターンがとれなくても支援すると腹をくくる。
- ・自分が預けているお金が何に使われているかを預金者に伝えて、預金者の意識を変える。



- 
1. 本事業の焦点、目的
  2. 本事業の成果
  3. 来年度に向けて
  4. 本事業の実施体制

### 3 来年度の検討課題

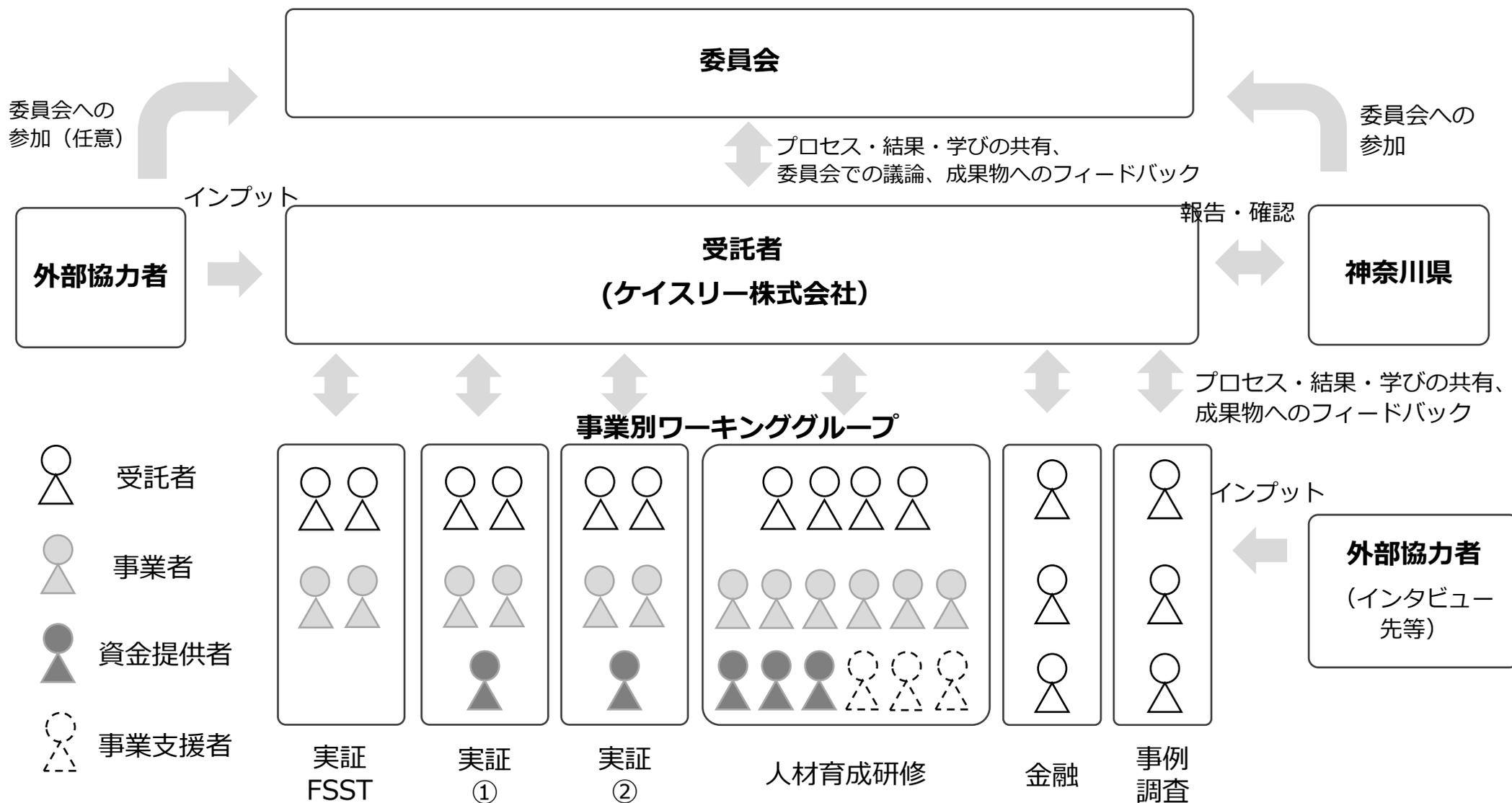
- 来年度に向けた検討課題、提言（案）は以下のとおり。

1	「SDGs×SIM」の進化・普及	課題	対応策
2	「SIM×金融」の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>ガイドの活用促進</li> <li>事業者及び資金提供者における理解促進</li> <li>事例の形成・蓄積・共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>（実践研修等）今年度の事業参加事業者をフォローアップし、SIM事例を発信・共有</li> <li>新たな優良事例の発掘・形成・共有</li> <li>セミナー・研修等の継続開催</li> <li>ロジックモデルや指標のデータベース整備</li> </ul>
3	人材育成、ネットワーク形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>金融機関におけるSIM導入・実装</li> <li>資金性質（投資・融資・助成）や、対象とする事業規模に応じたSIM活用の方向性と事例の整理</li> <li>金融機関のSIM活用の意義や成果の把握・発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>金融機関の事業への参画、実証事業の実施</li> <li>金融機関を対象とした研修等のプログラム開発</li> <li>金融機関において経営に統合することを目的に、機関ごとに実装をめざす個別伴走支援</li> <li>今年度参加した金融機関のフォローアップ</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs×SIMの実践・普及を担う人材の育成（支援者の育成）</li> <li>知見や事例の共有・発展を目的としたネットワークの構築・維持</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修の継続実施（中身については、今年度のパイロット実施を通じた学びを基に修正）</li> <li>知見の共有を超えて、事例形成や実装をめざす事業者・資金提供者と、それを支援する支援者・学者・行政などのネットワークの構築、プロジェクト化</li> </ul>

- 
1. 本事業の焦点、目的
  2. 本事業の成果
  3. 来年度に向けて
  4. 本事業の実施体制

## 4-1 実施体制（1/2）

- 本業務は、事業別ワーキンググループ、受託者、委員会、外部協力者（インタビュー先等）で構成される以下の体制で実施した。



## 4-2 実施体制（2/2）

- 事業別ワーキンググループ（WG）、受託者、委員会、外部協力者の概要と主な業務内容は以下のとおり。

	概要	主な業務内容
事業別WG	構成業務ごとに、事業者、資金提供者、委託者メンバーで構成されるWGを組成し、 <b>実証事業・研修・調査等を実施</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証事業の実施</li> <li>・SIMの事例形成</li> <li>・実践研修の実施</li> <li>・金融の動向等の調査</li> <li>・社会的インパクト評価の調査</li> </ul>
受託者	中心的立場として <b>本事業を推進</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・WG組成、とりまとめ</li> <li>・実証事業・実践研修に基づくSDGs×SIMガイド作成</li> <li>・社会的投資等、民間資金の呼び込みに向けた調査、ヒアリング、基本方針の策定、課題の整理</li> <li>・委員会の設置及び開催運営</li> <li>・外部協力者へのヒアリング</li> <li>・公開イベント（3回）の開催</li> </ul>
委員会	評価専門家・実践者、行政、事業者、金融関係者等で構成される委員会を設置し、5回の委員会を開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGs×社会的インパクト・マネジメントの実装に向けた検討</li> <li>・社会的投資等、民間資金の呼び込みに向けた検討</li> <li>・人材育成等、実践の普及に向けた検討</li> </ul>
外部協力者	金融関係者、社会的インパクト評価実施組織等が、各立場・経験から、本事業に対して個別にインプット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証事業や調査等へのインプット</li> <li>・委員会へのオブザーバー参加</li> </ul>

## 4-3 評価モデル検討委員会

- 評価モデル検討委員会は、以下の日程で3回開催した。各回とも、業務の進捗と連動した議題を設定し、委員及びオブザーバーによる討議を実施した。

回	日程	主な議題
第1回	2019年7月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度事業の概要、実施の方針 (実践研修、ガイド改訂、実証事業、事例調査について)</li> </ul>
第2回	2019年9月5日	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施目的の確認</li> <li>ガイドの位置づけ</li> <li>実践研修の応募状況と実施方法・内容</li> <li>実証事業、金融調査、事例調査の進捗共有</li> </ul>
第3回	2019年10月30日	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開セミナー（中間）の企画</li> <li>実践研修の途中段階での課題と今後の対応</li> <li>神奈川県版ロジックモデル</li> <li>金融との接続</li> </ul>
第4回	2019年12月16日	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開セミナー（中間）のレビュー</li> <li>実践研修の来年度以降の展開案</li> <li>本年度のガイド（公開版）の構成と展開案</li> <li>金融との接続</li> </ul>
第5回	2020年2月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開セミナー（最終）の企画</li> <li>実践研修の今年度の課題抽出と来年度以降の展開案</li> <li>金融との接続の可能性と課題</li> <li>事業者と資金提供者における社会的インパクト・マネジメント実装の可能性と課題</li> </ul>

## 4-4 委員会メンバー

- 委員会メンバーは以下のとおり。事業者、事業支援者、資金提供者、学者、行政をまたぐ構成した。（敬称略、五十音順）

氏名		所属	役職
今田 克司	委員	一般財団法人CSOネットワーク	常務理事
大湖 孔一	委員	株式会社横浜銀行 ※第4回、第5回	総合企画部 企画グループ
幸地 正樹	委員長	ケイスリー株式会社 (検討委員会委員長)	代表取締役
志波 崇裕	委員	パナソニック株式会社	ビジネスソリューション本部 CRE事業推進部 SST推進課
畠 浩史	委員	株式会社横浜銀行 ※第2回、第3回	総合企画部 企画グループ 調査役
黄 春梅	委員	新生企業投資株式会社	インパクト投資チーム シニアディレクター
山口 健太郎	委員	神奈川県	理事(いのち・SDGs担当)
米原 あき	委員	東洋大学	社会学部 社会学科 教授

## 4-5 受託者

- 受託者は、ケイスリー株式会社と再委託先の一般財団法人CSOネットワークに所属する計10名で構成した。

担当	氏名	所属	役割
業務責任者	幸地正樹	ケイスリー株式会社	業務全体の統括・品質管理
業務管理者	今尾江美子	ケイスリー株式会社	業務全体の管理・推進
業務担当者	熱田 瑞希	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	鬼澤陵	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	片岡 聡明	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	栗野泰成	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	澁江 耕介	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	鈴木豪	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	高橋聖子	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	千葉 直紀	ケイスリー株式会社	業務の推進
業務担当者	細田 幸恵	ケイスリー株式会社	業務の推進
アドバイザー	今田 克司	一般財団法人CSOネットワーク	助言

## 4-6 外部協力者

- 調査に関するインプット取得のためのヒアリング先は以下のとおり。

ヒアリング内容	訪問先（五十音順）
金融との 接続	KIBOW
	新生企業投資
	ソーシャル・インベストメント・ パートナーズ
	第一生命
	東急不動産HD（CVC）
	日本財団
	日本政策金融公庫
	日本民間公益活動連携機構（JANPIA）
	みずほ銀行
	三井住友銀行
	横浜銀行
	りそなアセットマネジメント

ヒアリング内容	訪問先（五十音順）
社会的イン パクト評価	アルケア株式会社
	大阪NPOセンター
	K2インターナショナルグループ
	Switch
	日本環境教育フォーラム